

【概略】

平成25年度 大仙市財務状況把握の結果概要について

総合評価

債務償還能力 [地方債等の債務の大きさとその償還原資を獲得する能力]

問題なし

実質債務月収倍率(②)が低いことから、債務の水準に問題はない。
また、行政経常収支率(④)が高いことから、償還原資の水準に問題はない。

資金繰り状況 [経常的な収支と積立金等の備えからみた資金余裕状況]

問題なし

行政経常収支率(④)が高いことから、経常的な収支の余裕度の水準に問題はない。
また、積立金等月収倍率(③)がやや低いことから、資金繰り余力の水準にはやや注意が必要。

財務指標

指標	①債務償還可能年数 ($\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}$)	②実質債務月収倍率 ($\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}$)	③積立金等月収倍率 ($\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}$)	④行政経常収支率 ($\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}$)
問題なし	9.4年	15.0月		13.2%
やや注意		18月	2.3月	10%
注意	15年	24月	1月	0%

問題なし
(債務系統)

債務償還能力

問題なし
(収支系統)

資金繰り状況

問題なし
(積立系統)

今後の見通し

今後の見通しについては、提出していただいた収支計画(平成31年度)に基づき実施したヒアリングの結果を記載しています。

■債務償還能力

- 行政経常収支率は、10%未満でありやや低く、かつ、債務償還可能年数が15年以上と長いことから、収支低水準の状況であると考えられる。
- 実質債務月収倍率は、18月未満であり低いことから、問題のない水準であると考えられる。

■資金繰り状況

- 行政経常収支率は、10%未満でありやや低いが0%を上回っていることから、問題のない水準であると考えられる。
- 積立金等月収倍率は3月未満でありやや低く、かつ、行政経常収支率も10%未満とやや低いことから、積立低水準の状況であると考えられる。